

内閣府だより

LETTER

沖縄県産酒類振興・消費拡大懇話会の報告書について



URL ▶ <http://www8.cao.go.jp/okinawa/osake2006/index.html>

内閣府沖縄担当部局では、『沖

縄県産酒類振興・消費拡大懇話会』（座長・尚弘子琉球大学名誉教授）を開催し、県内外の有識者の方々に、沖縄県産酒類の今後の振興策や消費拡大策を議論していただけてきましたが、

この度、報告書（『沖縄のお酒の発展に向けた11の提案』）がまとまりました。本土の有識者の方にも委員となっていたため、これまであまり論じられることのなかった新たな視点も多く反映されています。

沖縄県産酒類には、それぞれに、沖縄独自の歴史や気候と強く結びついた魅力がありながらも、その魅力が顕在化したと言えらるまでには至っていません。そこで、この報告書では、この魅力を顕在化させるために、①

提案の内容

1 沖縄のお酒を知ってもらう

- 泡盛などの体系を整理してはどうか
- 泡盛などのラベルを整理してはどうか
- コアブランドを確立してはどうか
- PR活動を強化してはどうか
- 観光とリンクした取組みをしてはどうか
- 県外向けの流通対策をしてはどうか

2 沖縄のお酒を味わってもらう

- 戦略的な製品開発をしてはどうか
- 古酒の積極的な展開をしてはどうか
- 一般消費の拡大に向けた取組みをしてはどうか

3 沖縄への親しみを深めてもらう

- 沖縄のお酒が生まれ、育んできた過程を紹介してはどうか
- 沖縄の食文化の振興をしてはどうか

沖縄のお酒のもつ個性や伝統を大切にした振興を図る、②県民一人ひとりの方に沖縄のお酒を愛し、飲んでいただくことを意識する、③食文化との深い関係を念頭に置く、という3つの考え方を基本として、11の提案をしました。

具体的には、「沖縄のお酒を知ってもらう」、「沖縄のお酒を味わってもらう」、「沖縄への親しみを深めてもらう」という3つの視点から、泡盛などの体系の整理や、県外向けの流通対策、戦略的な製品開発、沖縄の食文化の振興等について提案しています。販売戦略にとどまらず、沖縄県産酒類そのものの魅力を高めるための中長期的な取組みについても言及していることが特徴です。

今後は、報告書の提案を実行するステージに移ります。これらの提案は、お酒に関する提案なので、酒造業界の方々に担っていただくことは当然期待されていますが、研究開発の推進のように、行政機関が役割を果たすことにより一層の効果が期待されるものもあります。また、県民一人ひとりの方が、沖縄県産酒に愛着を持って味わうことにより、県外の方が感銘を覚え、ひいてはお酒の振興につながっていくという考え方からすれば、県全体として推進する必要があります。内閣府沖縄担当部局においても、今後、この報告書の提案の実施状況をフォローアップするとともに、必要に応じて支援していくつもりです。

LETTER

かりゆしウェアの普及・促進について

夏季の軽装期間初日の6月1日、安倍総理、高市大臣を始めとする全閣僚が、かりゆしウェアを着用し、閣議に臨みました。

また、夏季軽装期間中、沖縄担当部局職員が積極的に着用するとともに、内閣府各部局に購入用パンフレットを配布するなど、沖縄におけるクールビズの先進事例として、かりゆしウェアの普及・促進に努めています。



かりゆしウェアを着用する大臣ら（国会内大臣室にて）
写真提供：内閣広報室